平和台が好き

平成２１年１月１８日発行
第６７号

発　行
印　南　宏　後　援　会
発行責任者　印南　宏

あけましておめでとうございます。

平和台の皆さん、二〇〇九年の輝かしい新年、あけましておめでとうございます。昨年は政治も経済も大波乱の年となりました。年末年始も「年越し派遣村」、「百年に一度の金融危機」という言葉に代表されるように、近年になく大きな不安を抱きつつ新年を迎えた方も多いことと思います。

我孫子市の現状

私たちの街、我孫子市も例外ではなく、かつてない厳しい財政状況のなかで、平成二十一年度予算編成を行なっているところです。

迎える二十一年度は、歳入の柱である市税は固定資産税や都市計画税の評価替による減、団塊の世代の大量退職や景気の悪化などで大幅に減少、逆に歳出は委託料などの物件費や社会保障費などの増加が見込まれ、前年度並みに事業を遂行する為には、約六億円の経常経費の削減をしなければ予算を編成することができなくなっています。

まさに、事業の選択と集中をダイナミックに実行し、行政のスリム化・効率化の二本柱を基本に市民・職員・議会の皆が危機意識を共有しながら大胆に行財政改革を進めていかなければならない、我孫子市始まって以来の財政非常事態の年となっています。

深刻な経済危機、襲来！

今、米国に端を発した金融不安は、瞬く間に日本を、いや世界全体を深刻な経済危機に落とし入れています。そして、なんといっても世界の中心であるアメリカという国が今までの「小さい政府」から「大きな政府」に、転換をしてきていること、そして自由奔放の国であった米国が「無規制国家から規制国家」へと大きく変わってきていることなど驚きとともに、危機感すら覚えているところであります。

米国に右へ習えと今日まで寄り添ってきたわが国日本は、本当にこれで良かったのか、転換への動きが鈍い日本、楽観論、言葉遊びで終始するような国政の状況、日銀や財務省のスピード感のない官僚体制に失望感すら感じているのは私だけでしょうか。

そんな中で、基礎自治体としての我孫子市も今までのような同じ方法、考え方で、行政執行していったのでは、将来とんでもない失態を招くことになりはしないのか、今、自問自答しているところであります。市民にとって、我孫子という街が、真の自治体として本当に「住んでみたい。そして住み続けたいと言われる街に」なっていくためには、思い切った方向転換の時が来ているものと私は思っています。

♪　ぜひご覧下さい!!　♪

印南が代表を務める「あびこ 21」ホームページ
http://abiko21.exblog.jp/

我孫子市　公式ホームページ
http://city.abiko.chiba.jp

★平成二十年十二月定例市議会★

十二月議会は十二月一日（月）から十二月十八日（木）まで、十八日間開催されました。今議会は個人質問のみが行われる議会で、全部で十四名の議員が質問に立ちました。私も質問に登壇し、市政執行を新たな発想で行う必要性とスピードを訴えました。

・市民からの要望も含め、厳しい財政状況の中での二十一年度予算案の進捗状況
・地域経済の活性化策として我孫子駅南北自由通路整備事業
・市民会館跡地の活用
・工業系土地利用の今後
・さらなる広域行政の推進
・水道料金の値下げ
・成田線の利便化（新木駅舎の改善）

など質問と提言を行いました。

提出された議案は全二十議案

・厳しい財政状況を鑑みた特別職、一般職の給与減額の条例

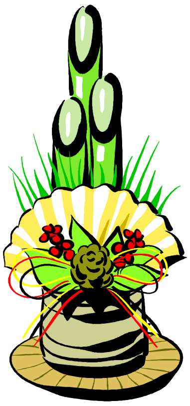
・子育て支援センター設置、官理
・自転車駐輪場の有料化
・市民プラザ、湖北地区公民館体育館を中心としたスポーツ施設などの指定管理者の選定
・墓地経営の許可に関する条例改正

など、全議案が可決されました。

請願・陳情関係では「無保険」の中学生以下の子供をなくすことを求める請願が二件、水害対策に関する請願が五件、その他、墓地建設に反対する請願、都市再生機構管理賃貸住宅（湖北台団地）の家賃改定に関する意見書、新木駅駅舎エレベーター、エスカレーター早期設置要望など全十一件が審査されました。

《主な争点となった課題》

①平成二十一年度予算編成と経常費の削減策
②水害対策の取り組み
③墓地条例改正前の開発再申請問題
④基本構想の見直しと工業系土地利用の在り方
⑤手賀沼農舞台の推進と、農業振興地域整備計画の見直し



年頭の一言（宏からみなさんへ！）

２００９年は、「牛の歩みも千里」をモットーに頑張りたいと思います。

「牛のように歩みは遅くてもコツコツ努力し続ければ成果が上がる」という、このことわざの意味を胸に、小さいことでもコツコツと、地道に活動を展開していこうと考えています。どうぞよろしくお願いします。

宏

★宏と語る小さな小さなティーパーティーのご案内★

12月議会報告と「これで良いのか、我孫子市は」の視点で、地域での諸問題を取り上げながら、意見交換・和やかなティーパーティーを開催したいと思っております。どうぞ、みなさま奮ってのご参加をお待ちしております。

◆日　時：平成21年1月31日（土）午後6時～7時30分位
◆場　所：布佐南近隣センター会議室
◆その他：事前予約等不要・参加費無料です。（どうぞお気軽にご参加ください!!）
（※国会の開催、総選挙の都合等で変更することがあります。）

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

印南　宏
十二月議会個人質問〈一部抜粋〉

○財政状況を積極的に情報発信せよ！

《印南》：市の財政状況の厳しさを市民に共通理解として知ってもらう新たな工夫をすべきである。

《企画財政部長》：初めての試みとして、十一月一日の広報に掲載、また、ふれあい懇談会で説明をし、市民の理解を求めた。今後も広報、ふれあい懇談会等で最新情報に努めていきたい。

○利用しやすい我孫子北口西側階段に！

《印南》：我孫子駅北口西側階段は、主に日立精機跡地を中心に開発された住民の皆さんの出入り口である。新たに改修される我孫子駅は利用しやすい出入り口にしなければならないが、どのような検討・設計がされているのか？

《市長》：北口西側階段の設置は、既存のエスカレーターの踊り場へ接続する形で設置を考えている。

○逆転の発想を行政に！

《印南》：市民会館跡地を手放すのではなく、ＰＦＩ手法※も含めて、駐車場等に再活用する方法など逆転の発想も必要である。

※（ＰＦＩ（Private Finance Initiative）とは公共サービスの提供に際して公共施設が必要な場合に、従来のように公共が直接施設を整備せずに民間資金を利用して民間に施設整備と公共サービスの提供をゆだねる手法である。）

《総務部長》：売却処分の基本的な方針は変えていない。処分が困難の場合は、ＰＦＩ手法も含めた駐車場等も検討する。

○水道料金の値下げを早急に実施せよ！

《印南》：北千葉広域水道企業団からの受水費削減分を限度に料金を早急に見直し、負担金も含めて値下げを速やかに実施すべきである。

《水道局長》：平成二十二年度の料金改定を目指し、今年度中に骨子案を平成二十一年度早々に改定案としてまとめ、九月議会に議案として提出したい。

○新木駅南北エレベーター・エスカレーターの早期設置を！

《印南》：新木駅北口第一駐輪場の代替地は買収も含めて検討す

る必要がある。代替地確保の進捗状況と新木駅南北エレベーター・エスカレーターの設置のスケジュールを問う。

《建設部長》：北口第二駐車場の立体化も手法の一つと考え、検討していく。スケジュールは平成二十一年度に基本設計、二十二年度に実施設計、二十三年度に工事及び使用開始を予定。また、エスカレーターは二十四年度以降の工事となると考える。

宏はこう考える！

市民会館跡地売却の再考について！

市民会館跡地利用検討委員会で旧市民会館の跡地を建物ごと民間に売却することで今日まで進めてきましたが、残念ながら紆余曲折のある中、売却には至っておりません。売却は残念ではありますが、これは一つのチャンスではないかと考える一人です。

今日までの跡地利用売却の発想を変えて、市役所本庁舎の周辺は、借地料として毎年、約六千四百万円もの駐車場賃借料が発生しています。これは五年間で単純計算すると約三億二千万円にもなります。これからも増え続ける車利用者に対応し、市役所は今、市有地を売却するのではなく、ＰＦＩ手法等を導入して、市民会館跡地に駐車場を含む複合施設を建設して、再活用していくなど、市役所周辺の土地を手放さない逆転の発想を持つことが必要だと考えます。

私は以前から、街の活性化には現在ある市役所を駅近くに移転し、市民の利便性向上、市職員の電車通勤を促進し駅周辺の活性化を図るべきであると議会で度々訴えてまいりました。

しかし、急激に悪化する財政状況や耐震化工事への莫大な投資等を加味すると市役所移転も大変難しいものとなってきました。そこで市役所周辺の市有地を簡単に手放すのではなく、自立した街づくりを行なう意味で市が独自に再活用していく手法をとるべきだと提案しています。

工業系土地利用の今後について！

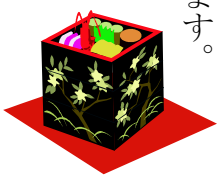
昨年九月の補正予算で五百万円をつけて調査した工業系土地利用の調査研究報告書が遅ればせながら、今年十月二日に我々議員にも配布されました。先月、市内各所で行われた「ふれあい懇談会」にも市民の皆さんへ工業系土地利用概要版をお配りしています。

この事業は我孫子市の商工業の発展、雇用機会の創出、税収増による財源の確保や住工混在解消策として必要なことは言うまでもありません。前市長時代にも何度となく、将来のために雇用・市税を生む施策として工業的土地活用を急ぐよう私は提案してまいりました。

しかし、今定例会の一般報告でも述べられているように、実現には用地費や造成費など多額な事業費問題や調整区域内である十六haに及ぶ農地転用の問題や地権者の合意など数々の難問があることも事実です。

市長の重要な選挙公約でもある、この事業の今後について、市政一般報告では「多くの場で意見を聴き、判断していく」と述べられていますが、この報告書は工業系土地利用調査研究委員会が一思案として整理したものであり、次のステップに進むための判断材料として不十分な資料と思われます。

私は補正予算を取ってまでも事業を進めたいという市長の前向きな努力は認めるにしても現在の厳しい環境下、世界経済全体が不況に向かっている時代、この事業を現在、進めていくことは我孫子市にとって大変危険であると考えています。



新年に思う

今年の年末・年始は年老いた私の父（八十八歳）と一緒に平和台の我が家で過ごした。銚子の実家に暮らす父（八十八歳）がこの二、三ヶ月、急に体が弱くなり、一人で生活することに不安が出てきたからだ。何でも出来た父が急に歩くことも、ズボンを穿くことも、お風呂に入ることも不自由になってきた。老いの進行は突然にやってくる。普段は実家のすぐ近くに住む、姉の世話で暮らしていたが、年末・年始、何かと忙しい姉の代わりに私が世話をすることになった。

銚子の実家まで車で迎えに行き、約二時間で我孫子に着いたのだが、父は「遠い」の一言、車に弱い父は少し疲れたようだ。平和台では一階の和室に父と私の二枚の布団を敷き、年末・年始中、一緒の部屋で過ごした。こんな形で生活するのは初めての経験だった。

おかげさまで妻や子供たちの協力もあり、平和台にいる間、家族団らん、みんなで食事をとり、夜は近くの寿司店に出かけ、軽く熱燗で一献、お正月は地元、竹内神社へ家族で初詣。無事、

平穏に暮らせた。急に増えた家族、父の存在に対する家族の抵抗感も少なく、父にとっては住みなれた銚子を離れて不安もあると思うが、どうにか合格点をもらえたものと思っている。

それにしても、「子供泣かすな、来た道だ。年寄り笑うな、行く道だ。」のとおり、人は生きている限り、誰でも平等に年を経る。我孫子市も後四年後には確実に四人に一人が高齢者の街に、既に三十七～三十八％の高齢化率になっている自治会もあちこちに存在している。高齢者が活き活きと元気に暮らしてもらうための諸施策の確立は市政の大きな責務となっている。厳しい財政状況はこの先も続いていくが、新年、もう一度、高齢者施策について、お年寄りの立場・視点を基に市政に反映していくことの大切さを再認識させられた年末・年始だった。

平和台雑感

元旦の早朝、いつものように愛犬ジョン（柴犬牡）と浅間前新田・グラウンド方面へ散歩。日の出、直前の時間帯であったため、初日の出のご来光を見るために大勢の人々が浅間前グラウンド付近に集まっていた。その時、西の彼方を見ると、遠くに富士山がくっきり、そして二〇〇九年の初日の出も、とても美しく輝いて見ることができた。その後、散歩を続けていると、望遠鏡で野鳥を観察しているご夫婦から、とても珍しいので覗いてみてご覧と声をかけられた。「鷹」が見えるとのこと。観ると独特の口ばしと鋭い眼光、まさしく鷹。「一富士二鷹三茄子」家に帰って茄子があれば、今年は元旦から縁起が良い。そんな元旦のうれしい一時だった。

◆毎年、お正月の箱根駅伝は一番の楽しみ。地元、中央学院大の応援も忘れない。昨年は過去最高の三位に入賞、シード権を得て、確実に力がついてきた中央学院大、今年に期待がかかった。結果は総合五位に入賞、初めてシード権を死守することができた。だが、目標とした昨年のタイムを上回ることができなかった。平和台在住の川崎勇二監督の口からは、「往路四位だった勢いが復路では十三位と散々の結果、チームが持っている力が出せなかった。四年生の力で救われた。来年にはつながらない。」と厳しい一言。来年こそ、チームを立て直し、悲願の優勝を期待したい。頑張れ！中央学院大。頑張れ！川崎監督。

◆米国発、金融危機は日本経済を大きく巻き込み、国内政治の事情と絡んで、見えない荒波が押し寄せているような不安が増大の昨今である。こんな状況を予想した、二年前に読んだ藤原正彦著「国家の品格」を思い出した。確か、あの本に市場経済が進んだ結果、日本も貧富の差が大きくなったこと、あまりにもひどい格差は社会的に不公平と一緒であり、資本主義も非常に危険な段階に来ている。と書いてあった。その理由の一つに市場原理の申し子とも言えるデリバティブ（金融派生商品）の存在をあげていた。実体経済を忘れ、欲の塊となり投機に走る。時限核爆弾となるデリバティブ、まさに現実、今、起こっていることである。民主国家は現実として世論こそが正義であり、必然的にマスコミが第一の権力者になっている。そのマスコミがデリバティブを規制することをなぜか、触れようともしない。遠慮をしていた。なぜか不思議である。

◆政治の世界では安部晋三元首相から福田康夫前首相と二代続けて日本での政権投げ出しは与党への信頼を大きく失墜させた。日本は真のリーダーが存在しない。今こそ、真のリーダーが必要なときはない。前に紹介した「国家の品格」では国家には真のエリートが絶対に必要と述べられている。真のエリートは暴走する危険性の高い民主主義を抑制することができる。また、真のエリートは二つの条件が必要である。第一に真のエリートは文学、哲学、歴史、芸術、科学といった、何の役にも立たないような教養をたっぷりと身に付けていること。第二に、「いざ」となれば国家、国民のために喜んで命を捨てる気概があること。を挙げている。いま、日本で今、一番必要なことは真のエリートが創造される教育、社会環境をつくること、すなわち人財育成の仕組みづくりを再構築することだと思っている。人財しか日本には誇れる財産は無いのだから。

宏

印南　宏後援会

〒270-1198　我孫子市日の出 1131
（日本電気労働組合我孫子支部内）
Tel　７１８４－２８６０

印南　宏　自宅
布佐平和台７－１－１８
Tel　７１８９－１５９８
e-mail　innami@mqd.biglobe.ne.jp
ﾌﾞﾛｸﾞ　http://hiroshi4649.at.webry.info/